

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 29 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育課程を実践し、自立した個人として必要な社会実践力を身につけさせる。</p> <p>②「学ぶ」楽しさを意識した不断の授業改善に取り組む。</p>	<p>①基礎・基本の定着につながる学習支援システムを展開する。また、総合的な学習の時間における「朝読書」を効果的に活用する。</p> <p>②「わかる授業」作りにつながる組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①1年生対象の学習サポートは引き続き週2回のペースで実施し、参加して欲しい生徒への声かけを工夫する。2年生についてはニーズを的確に把握し、効果的な運用を検討していく。</p> <p>①朝読書により読む力・読み解く力等を育成するとともに基本的な生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>②教科の枠を超えた相互授業観察で一斉授業からの転換を意識した意見交換を活性化させる。</p> <p>②1学年全教室に設置したプロジェクターをはじめ、ICTの積極的な活用とUD化をさらに推進する。</p>	<p>①1年生の実施回数・参加生徒数・ボランティア人数は昨年より向上したか。</p> <p>①ボランティアとの情報共有はできたか。</p> <p>①2年生は効果的な運用ができたか。</p> <p>①POP作成・ビブリオバトル等は実施できたか。</p> <p>①遅刻する生徒の状況は改善したか。</p> <p>①図書室の利用状況に変化は見られたか。</p> <p>②全職員が、年間10人以上の授業見学を達成できたか。</p> <p>②一斉授業からの変化が見られたか。</p> <p>②ICTを活用した効果的な授業展開が前年度より多く見られたか。</p>	<p>①1年生の実施回数・参加生徒数・ボランティアの人数ともに昨年度より増えた。参加生徒数は延べ数で2倍になったが、その分参加する生徒の学習到達度の幅が広く、教材数の不足という事態が生じた。特定の生徒がサポートに参加しているという現状もあった。また、2年生については長期休業中等を利用して複数の教科で補習を実施できた。</p> <p>①実施1週間前にボランティアとの教材の共有や、サポート後の情報共有などを行えた。</p> <p>①朝読書では生徒が落ち着いて読書に取り組める環境整備に取り組み、基本的な生活習慣の改善が見られたが、遅刻する生徒の数の改善には必ずしもつながらなかった。</p> <p>①図書室の貸出状況は年間で3071→3381と増えている。</p> <p>①POP作成やビブリオバトル等の活動には繋がらなかった。</p> <p>②ICTを活用した授業数は確実に増え、生徒が主体的に活動できる場が昨年度よりも多く見られるようになるなど、一斉授業からの変化が見られた。</p> <p>②全教職員が年間10人以上の授業見学を実施することについては、10人をはるかに超えて見学する教員がいる一方で、10人を下回る職員も一定数いた。</p>	<p>①教科によって参加人数に隔たりがあり、3学期に改善策を施して効果があったが、来年度も同じ現象が予想されるので早めの対策が必要。生徒の学習到達度に応じた幅の広い教材作成も必要である。また、学習サポートに続く仕組み作りも課題である。</p> <p>①朝読書では集中する習慣は身についたが、内容理解についての効果はよくわからなかった。</p> <p>①POP作成・ビブリオバトル等には継続して取り組む必要がある。</p> <p>②2年生の教室に移動式大型モニターが設置されるため、引き続きICTを活用した授業への取り組みなど、一斉授業からの脱却と、他者の授業見学から学びながら授業改善に取り組んでいく必要がある。また、教室に暗幕を整備する必要もある。</p> <p>②様々な業務が多く、教材研究をはじめ、生徒や職員とのコミュニケーションをとる時間の確保が今後の課題である。</p>	<p>①学習サポートの教材作成については、色々なタイプの生徒がいる中で、個々の生徒に対する教材を作るのは大変である。アメリカのある大学で行われている教材を管理するセンターのような機能を作れば、教員にとってもいいヒントになるし、ボランティアの方も来やすくなると思う。</p> <p>①来年度の学習ボランティアの予算の件については、ボランティアの方のモチベーションと満足度をしっかりフィードバックしていけば、交通費はいらなくとも出てくるのではないかと。</p>	<p>①学習サポート参加生徒数は粘り強い教員からの声掛けもあり、確実に参加者が増えたことは大きな成果である。また、継続して参加している生徒の成績が向上したことも大きな成果である。しかしながら、2年次での学習サポートの継続を希望する生徒が多くいる中で、いかに対応していくかが課題である。</p> <p>②組織的な授業改善につながる授業見学は、目標の1人10人以上が達成できなかったことは課題であるが、若手の教員だけでなく中堅・ベテランの教員の中にもICTを活用した授業を行う職員の数が増えていることは成果である。</p>	<p>①引き続き学習サポート参加生徒数の向上を目指して引き続き積極的な声掛けなどの工夫が必要である。また、2年次での学習サポートの実施に向けて、具体的な取組みに着手する必要がある。</p> <p>②組織的な授業改善については、教員同士が積極的に他者の授業を見学に行く雰囲気を作り出すとともに、全県で行われている公開授業などへの積極的に参加するように促していく必要がある。</p> <p>②ICTを活用した授業では、プロジェクターの画像が生徒から見えるように教室の前半部分に遮光カーテンの設置が必要である。</p>
2 生徒指導・支援	<p>組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。</p>	<p>①全職員による一斉指導を展開し、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>②コア会議・ケー</p>	<p>①問題行動未然防止推進校2年目として、生徒・職員・家庭を対象とした講演会や研修会、生徒居場所カフェをさらに活性化していく。</p> <p>①部活動活性化に向</p>	<p>①講演会や研修会の生徒の反応はどうかであったか。</p> <p>①家庭への働きかけも含め、全職員による一斉指導により生徒の基本的な生活習慣と規範意識に向上は見られた</p>	<p>①問題行動等生徒未然防止生徒対象講座では、75%超の生徒が「良かった」と回答した。</p> <p>①一斉指導は計画的にしっかりと実施でき、生徒の基本的な生活習慣定着や規範意識の向上の醸成は図れた。</p> <p>①新たな取組みとして新入生に対する部活動紹介を大きく変えた。部活動の年度当初の加入率は昨年度よりも下がってしまったが、年</p>	<p>①研修成果を具体的にどのように生徒支援体制の構築に活かしていくかが課題である。また、保護者への働きかけは継続して行っていないと見えない。①一斉指導では、徹底できない部分があり、依然として一部生徒の規範意識の欠如が課題</p>	<p>①問題行動等未然防止の取組みとして行った生徒対象のコミュニケーションセミナーでは、隣の生徒とさえ声をかけられない生徒が以外に多くて、知らない子と話すことが難しいことがよくわかりました。この子達は、一度あるグループからは</p>	<p>①全職員による一斉指導は、生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる上で一定の効果は出ているが、特定の生徒がなかなか指導に素直に従わず、規範意識の欠如が感じられるのは引き続きの課題</p>	<p>①学年末に一定数の生徒が転学や退学をしていく現状には様々な理由が考えられることから、本校の持つ支援システムであるSC、SSW、SCCの専門家や教育相談コーディネーターとの連携をより一層</p>

			<p>ス会議・生徒支援会議を活用した教育相談体制により、チーム支援に取り組む。</p>	<p>けた新しい取組みを積極的に取り入れる。</p> <p>②NPO法人パノラマとのつながりを強化し、カフェに個別相談事業を導入することで幅広い支援の枠組み作りを目指す。</p> <p>②SC・SSW・SCC・さらにはカフェ相談室との情報共有を密にし、特にいじめ防止のアンテナを高くし、全職員による教育相談・チーム支援に取り組む。</p>	<p>か。</p> <p>①新たな取組みは実施できたか。また、加入率・継続率に変化は見られたか。</p> <p>②SC・SSW・SCCとの情報共有や連携は密であったか。</p> <p>②カフェのボランティアとの振り返りや情報共有がしっかりできたか。</p> <p>②生徒の課題に関して、早期発見・早期支援に繋げることができたか。</p> <p>②カフェの個別相談（どろっぴん）は機能したか。</p> <p>②いじめ防止に関する実践的な職員研修を実施することができたか。</p>	<p>度末の加入率は昨年度より減少が少なく継続率は向上した。</p> <p>②SC, SSW, SCC との綿密な連携のもと、毎週のコア会議における生徒情報の共有に努め、効果的な生徒指導に繋がられた。また、カフェのボランティアとの振り返りや個別相談（どろっぴん）での情報共有にもとづき、生徒の課題に関して早期発見・早期支援に繋がられた。</p> <p>②単独でのいじめ防止に関する職員研修は実施できなかったが、いじめに対する実際の事案対応による職員の対応力の向上が見られた。</p>	<p>である。</p> <p>①継続率は向上したが、学校運営協議会等外部資源の活用などはまだ不十分であり、改善の余地がある。</p> <p>②ボーダーカフェが明るく活発で仲間の多い生徒や、退学者が仲間に出会うために参加するという現状があり、本来の意味での「居場所のない生徒」に対しての効果について考えなくてはならない。</p> <p>②いじめ防止に向けた職員研修は実施できなかったが、いじめ防止委員会など具体的事案対応により職員の意思統一と対応力の向上が図れた点は良かった。生徒に対してどういう立場で接しているのか。</p>	<p>じかれてしまうと、次のグループにうまく溶け込んでいく力がないと、中退していきことに繋がってしまう。</p> <p>②平成31年度の入学生に対して入学前支援を行ったら良いと思っっている。具体的には、入学式前にボーダーカフェ体験やインテーク面談を実施し、入学式の前に友達ができることで、中退者を減らせるのではないかと。また、これらの取組みを通して、クリエイティブスクールが「入学前支援重点校」としてブランド化し、生徒も保護者もここなら頑張れると思ってもらえたら良いと思う。</p>	<p>である。</p> <p>②毎週のコア会議は確実に実施することができ、生徒の抱える様々な課題の早期発見、早期対応が行えたことは大きな成果である。</p> <p>②カフェのボランティアとの振り返りと情報共有はしっかりと出来ており、毎回作成するレポートを管理職を始めとして、関係者で情報共有ができた。しかしながら、明るく活発ですでに仲間がたくさんいる生徒や退学者が参加するなど、本来の意味での「居場所のない生徒」の場所となっていない指摘があることは課題である。</p>	<p>密に取ることにより、現状の改善を図っていく必要がある。</p> <p>①部活動の活性化については、引き続き様々な工夫を凝らしながら加入率の向上に向けて取り組んでいく必要がある。</p> <p>②昨年度はいじめ防止に関する職員研修が実施できなかったことから、次年度は実施できるようにする。</p>
3	進路指導・支援	<p>自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献できる生徒を育成する。</p>	<p>①総合的な学習の時間を中心とした3年間の系統的なキャリアプログラムを実践・検証を継続する。</p> <p>②地域・社会と連携したキャリア教育実践プログラムにより生徒の社会実践力を高める。</p>	<p>①1年生のキャリアプログラムの改善を図り、さらに充実したものとする</p> <p>①2年生のキャリアプログラムの着実な実施と検証、それに基づく、3年生のプログラムの完成を図る。</p> <p>②「社会体験プログラム」を始め、様々な形で外部資源を活用し、職業観・勤労観の育成を図る。</p> <p>②進路室、SCCの効果的な活用を図る。</p>	<p>①1年生について、前年を上回る参加率、満足度となっているか。</p> <p>①定点観測としてのアンケートを2年生でも2回実施し、検証できたか。</p> <p>②法人会等の外部資源やSCCを活用し、生徒が早期に進路活動に取り組むようになったか。</p> <p>②法人会や協力事業所からの要望は反映できたか。</p> <p>②主体的に進路を考えることができる生徒が60%を超えているか。</p> <p>②SCCと職員との連携、情報共有は良好であったか。</p>	<p>①ディキャンプの満足度は97%と前年より8ポイント、社会体験の全日程参加率は89%と前年より11ポイント向上した。</p> <p>①2年生での2回目のアンケートに「主体的に進路を考えることができたか」の項目を加えて実施し、検証を行う予定である。</p> <p>②SCCや法人会等と連携し、計画的にプログラムを実施できた。</p> <p>②法人会と年間2回の定期連絡会を実施することとし、事業所等の意見を取り入れやすくなった。</p> <p>②SCCと職員との連携、および情報共有は良好に行うことができ、生徒の進路室の利用の拡充に繋がった。</p> <p>②質問の仕方が生徒にわかりづらかったため、「わからない」という回答が多かったため、60%を超えることはできなかった。</p>	<p>①教職員間で「育成すべき生徒像」を共有した上で、日常の教育活動を行う必要があるのではないかと。</p> <p>②企業に社会体験等を受け入れることになる生徒を正しく理解してもらうために、学校と法人会の各事業所と綿密な交流を図る必要がある。</p>	<p>①NPO法人パノラマの石井・小川がディキャンプに参加して、早い段階から1年生と接することができ、問題を抱える生徒理解に繋がれたことは良かった。</p> <p>①1年生のキャリアプログラムでは、参加率や満足度が向上したことは大きな成果であったが、法人会から2年連続で手を挙げていた企業に1人も生徒が参加しなかったことは課題である。</p> <p>②年度により生徒像の変化があるなかで、多くの企業は特性のある生徒を理解しており、懐の深さを持った方たちが手を挙げてくれているので、先生方が恐縮してしまうよりも、実際に起きてしまったことを寛容して、どのように吸収していくかを考えた方がうまくい</p>	<p>①ディキャンプや社会体験の満足度や参加率が向上したことは、地道な取組みが結果に結びついたものであり、大きな成果であると考えられる。しかしながら、社会体験の協力企業について、せっかくな手をあげてもらったのに2年連続で生徒を送ることができなかった企業があったことは課題である。</p>	<p>①「総合的な学習の時間」が「総合的な探求の時間」に変わることから、これまでの本校の朝読書の時間がうまく融合できるように様々な取組みを行う。</p> <p>②法人会所属の事業所に学校紹介DVDなどを活用して、クリエイティブスクールとしての本校の仕組みと生徒の特性を理解してもらえるような取組みを行う。</p>

			<p>止研修会を年間10回以上実施する。</p> <p>②事故・不祥事防止の研修や注意喚起をタイムリーに実施し、全職員の意識啓発に努める。</p>	<p>な成果を用いて見える化できたか。</p> <p>②会計処理の執行、証明書等の書類の発行に関し、ミスのない処理ができたか。</p>	<p>た、新1年生対象の入学時アンケートからも、生徒が本校の仕組みをわかった上で入学してきていることが伺える</p> <p>②進学出願に際しミスが2件発生したが、事故にならないように事態の收拾に全力であたった。</p> <p>②8月に教育センターより講師を招き、不祥事防止研修会を全職員対象に実施した。また、職員会議等の機会を捉え、事故防止研修会を10回実施した。</p> <p>②財務課による財務事務調査の指摘事項やPTA会計監査委員からの会計処理についての指摘事項は、全て職員に周知し、誤った処理や対応については早期の改善及び修正に取組ませた。</p>	<p>②継続して、事故・不祥事防止に向けて職員の意識啓発に努める。</p> <p>②引き続き適正な会計処理に向け、前年度の外部からの指摘事項を異動者も含め、全ての職員で共有し、私費会計担当者や事務職員とも密に情報交換しながら、迅速で適正な会計処理に努める。</p>	<p>②クリエイティブ・スクールは入学前に支援をしてくれる学校だというブランド作りも大事ではないか。その意味で入学前支援はぜひ実施してもらいたい。</p>	<p>ようになってきたことは成果である。</p> <p>②ミスのない適正な会計処理については、管理職からの2重、3重のチェックを徹底することで、前年度よりも改善させることができた。</p>	<p>②会計処理については、毎年職員も代わることから、私費会計基準の徹底と、ねばり強い指導を重ねることで、引き続きミスのない会計処理に努める必要がある。</p>
--	--	--	---	---	--	--	---	--	--